

岐阜県教育委員会 様

岐阜県立中津川工業高等学校

校長 加藤 信男

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 中津川工業高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和4年2月22日(火)
- 3 開催場所 書面開催
- 4 参加者

会長	丸山 優	中津川市坂本11-1元区長
副会長	松井 進	中津川工業高等学校同窓会長
委員	田口 勝幸	中津川市立坂本小学校長
	田口 雅徳	中津川市立坂本中学校長
	山口公美子	坂本こども園長
	尾関里恵子	株式会社デンソーテン 中津川製作所
	加藤 早苗	株式会社大同キャスティング
	平井 菜月	三菱電機株式会社 中津川製作所
	三浦 正志	中津川工業高等学校育友会長
学校側	加藤 信男	校長
	伊藤 岳明	教頭
	斉藤 良成	事務長
	藤浪 元明	教務主任
	水谷健太郎	生徒指導部長
	山田 豪	進路指導部長
	後藤 昭博	工業部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 課題研究発表会について

意見1: アイディア、着眼点に素晴らしさを感じ、普段勉強していることや意識の中から生まれてきたものであると感じた。

意見2：各科の学習や実習を基に創意工夫ある作品であった。中学生までは与えられた材料で一律に製作することがほとんどだが、高校に入り数年でこれだけのものづくりが自らの手で完成できることはすばらしい。

意見3：スターリングエンジンの製作が印象に残った。結果として動作しなかったとしても難しいことに挑戦し、四苦八苦しながら頑張った経験が大きな糧になる。ソーラークッカー&データロガーシステムも興味深かった。

(2) 本年度の学校の取組について

意見1：企業ではコロナ収束後もオンラインを活用していくことが予想されるので、学校生活の中でも引き続きオンラインを活用した取組を継続してほしい。

意見2：学力差のある生徒に対し一律の高校教育や専門教育を実施し、成果を上げることは想像以上に大変であろうと思う。真の工業教育を目指し、ものづくりの楽しさを知って社会人になる生徒が増えることが本校の発展につながる。

意見3：YouTube開設等、中学生・保護者へ向けた情報発信はとてもよいことである。

意見4：コロナ禍でオンラインの活用等が必須となってきているが、個別教育の面が強くなり集団生活で身につくマナー、コミュニケーション、思いやり、気遣いなどを学ぶ場が少なくなるように感じている。

(3) スクール・ポリシーについて

意見1：一部の生徒を除いて、自校に対しての誇りという面でやや弱さを感じる。本校は伝統ある高校であり、ものづくり、部活動など発信力を強めることを望んでいる。

(4) 本校の取組の反省と次年度に向けての提言について

意見1：生徒とともに学校づくりを考える機会を設定していくこともあっていいのではないかな。

意見2：工業高校のよさは、本校の授業を見たり説明を聞いたりしてよく分かった。今後はそのよさをどう発信していくか工夫することが大切である。

意見3：本校の体育祭は、地元でも評価されている。伝統として残してほしい。コロナ感染症が流行するのは大型連休後が多く、そのあたりを踏まえて年間行事計画を作成してほしい。

(5) その他

意見1：本校の地元ということもあり坂本小学校への出前授業はできなかな。生徒が作成したUFOキャッチャーなどを実際に触れることができれば小学生にも本校の魅力が伝えられる。

意見2：工業高校としてもものづくり教育は大切である一方で、部活動での取組も期待している。

6 会議のまとめ

- ・委員からは、各学科で行われた課題研究発表会の発表資料を見たうえで、生徒の作品や研究内容に対し高い評価を得ることができた。
- ・本年度、コロナ禍であったため体育祭・文化祭両方の実施が難しかったため、まとめて学校祭として実施した。伝統的な体育祭の応援を、クラスの取組として実施するなど、工夫して実施されたことについて評価された。
- ・本校の生徒が入学定員に満たない問題については、学校運営協議会において問題意識を共有し、今後は公式のYouTubeの開設など直接中学生に向けたPRを工夫して展開していきたい。